

## 第 15 回鎌倉市生活環境整備審議会 議事録（概要）

- 1 **開催日時** 平成 27 年 3 月 16 日（月）10 時 00 分から 11 時 30 分まで
- 2 **開催場所** 鎌倉市中央図書館 3 階 中央図書館多目的室
- 3 **出席者** 横田会長、荒井副会長、坂本委員、村田委員、安田委員
- 4 **事務局** 石井環境部部長、小池環境部次長、遠藤環境施設課課長、齋藤環境施設課課長補佐、大宮環境センター担当課長補佐、花田環境施設課環境施設担当

5 **傍聴者** 8 名

### 6 **協議内容**

#### 鎌倉市ごみ焼却施設基本計画（案）について

- (1) 鎌倉市ごみ焼却施設基本計画（案）の修正事項について
- (2) 鎌倉市ごみ焼却施設基本計画の答申について
- (3) その他

### 7 **配付資料**

- (1) 資料 1 「鎌倉市ごみ焼却施設基本計画（案）」

### 8 **会議の概要**

主な質疑応答等の内容は次のとおりです。

開会 小池次長  
配布資料の確認 遠藤課長

傍聴者、議事録の確認

#### 横田会長

配布された議事録は、第 14 回鎌倉市生活環境整備審議会の議事録である。配布された内容でよろしいか。

（了承）

特に意見がないようなので、前回の議事録を確定とする。事務局は鎌倉市のホームページへの掲載をお願いしたい。

それでは本日の協議に入る。事務局から説明をお願いする。

#### 遠藤課長、齋藤課長補佐

資料 1 「鎌倉市ごみ焼却施設基本計画（案）」を基に説明を行った。

#### 横田会長

前回の審議会における指摘事項の修正についての説明をしていただいた、ご意見をお願いしたい。

些細なことであるが、P69 の環境計画の「1 現状と目的」の文章について、文章の内容が前後

で変わるので、「また」以下は改行した方が良いと思われる。

### 荒井副会長

P22 の表 3.4.5 処理方式別のごみ処理費について、焼却方式とガス化溶融はプロセスが違うので、同一に取り扱って平均をとるのは少し無理があるように感じられる。ただ、とりあえず出したということであればそれでも良い。

P58 の (2) 作業環境対策について、「ガス、粉じん、蒸気の発生する場所」とあるが、蒸気は発電に使用したり、余熱利用に使用したりするので、発生する場所というのはボイラーを指すのか、蒸気漏れを指すのかが分からない。「ガス、粉じん等を発生する場所」とした方が良いのではないか。

P69 の「低炭素建築物」という言葉は聞いたことがない。

P75 のエネルギー回収可能量について、アとイでは出力のことを言っているが、P76 では「kWh」と、電力量になっている。統一した方が良い。

### 横田会長

ごみ処理費については、結果としてはこのようになるとしても、プロセスの中身が違うので平均して良いのかという意見である。

### 荒井副会長

焼却方式とガス化溶融方式は分けて考えたほうが良い。最終的なことはおまかせする。

### 横田会長

何を言いたいのかということに関わってくる。ごみ燃料化方式と炭化方式を考えていないのであれば、参考値として扱ってはどうか。

### 安田委員

P81 の津波のことについて、先週神戸大学で学会があり、阪神淡路大震災と東日本大震災の一番の違いは津波による影響であるとのことであった。時間の制約があるので、表 8.2.4 の記録は仕方がない部分もあり、これはこれで良いと思うが、鎌倉の場合はどちらかということと津波のことを考えておく必要があるため、継続してデータを集めて追加していくようにしていただきたい。

P76 の計算式について、国が決めた計算方法であり、交付金のこともあるので理解できるが、日本では、余熱利用が難しい場所が多いため、熱を電気に変えて総合熱効率が 8 割以上になるような計算をするが、欧米ではむしろ熱を主として計算をしている。鎌倉市も、熱利用がしやすい場所となった場合は、熱利用の検討もお願いしたい。

### 遠藤課長

津波の件について、今後も調査をしていく必要があるが、建設候補地になっている 4 候補地については津波の影響がない地域となっている。

## 安田委員

津波の影響については、今のデータベースを基に計算をした場合の話であり、データが変われば想定される津波の高さも変わる。そういったことも含めて丁寧に調べていただきたい。

## 荒井副会長

一般的にはハザードマップを基に到達想定高さを決め、地盤面の嵩上げ等を行う。最近は電気室関係を2階に上げるといったことが行われている。

## 横田会長

今のご意見は、報告書の修正は別として、今後も配慮していただきたいということである。地震の対応には津波を伴う場合と、伴わない場合の2種類があるということを付け加えてはどうか。

## 村田委員

急に焼却となった感があり、釈然としない部分がある。「最善の方法ではないが、トータルで考えた場合には焼却方式となる」といったことが計画に入っていれば良いのだが。

## 石井部長

資源化することも減量することも大切であり、それが両方とも進んだ場合においても、原則的に、焼却施設は必要であると考えている。鎌倉市は基本構想の中でも、ゼロウェイストを目指すということを言っている。現在、ごみ処理基本計画を策定中であり、今後もそれを目指して検討していくことになると思う。

## 村田委員

ごみの減量に協力してきた主婦の感覚は、マクロよりもミクロである。かなりの主婦の方がそういった目線であると思われる。「資源化してもごみは出るので、焼却は避けられない」ということが、これまで市の施策等で十分にアピールされていなかった。丁寧に説明していかないと、理解してもらえないと思う。

## 石井部長

エネルギー回収をする施設を造る計画であるため、「今後はどんどん燃やしていくのか」という意見も寄せられる。今後も資源化を進めていく必要があり、将来は燃やすごみがゼロになるという技術が出てくるかもしれないが、それまでは安定的な処理をするために焼却施設が必要であるといったことや、これまでは燃やすだけであったが、今後はエネルギー回収を行うといったこともしっかりと説明していく必要があると考えている。

## 村田委員

処理の仕方が、従来の流れである資源化から焼却になり、そのため有料化が始まるという風に認識し、釈然としない人達もいるのではないかと。

## 石井部長

今後、資源化は継続していく必要があるということを説明していかなければいけないと考えている。

## 村田委員

市民には今まで蓄積された部分もあるので、丁寧に説明していく方法しかないと思う。

## 石井部長

確かに市民の中には、これまで資源化していたものまで焼却をしていくように、方針転換をしたと誤解をされている方もいるので、引き続きごみの減量・資源化を図り、それでも出るごみについてはエネルギー回収をするということを説明していきたい。

## 村田委員

丁寧な説明をお願いしたい。

## 横田会長

石井部長から、たいへん明確な、行政の立場からの話があった。本当にそのとおりだと思う。ごみというのは暮らし方を映し出している面があり、要らないものをどう処理していくかということが根底にある。国全体の流れにも波があり、戦後の経済成長でごみが増え、焼却が始まり公害問題が発生した。1975年から2000年にかけては「反省期」であり、焼却だけでなく、リサイクルすべきだという意見が出てきた。2000年はそれがピークに達し、リサイクル元年とも言われている。現在はリサイクルの反省期に入ってきている。リサイクルも過ぎるとお金が掛かり、結果的には焼却の方が環境にも良いのではないかという話にもなってきている。全国的にごみを処分できるスペースがないということが問題としてあるが、ごみは末端からのスタートであるため、必ずしも均一な良い状態ではなく、資源化が難しい部分もある。特に鎌倉市は埋め立てる場所がない。石井部長がいわれたように、行政側に立つと焼却するしかないということになる。生活様式も変わり、技術の進歩によってもっと良い処理方法が出てくるかもしれないので、焼却が永久に良いというわけではないが、当面は焼却が最善の方法ではないかと私も思っている。

## 安田委員

石井部長の話は、基本的には減量を行うということであった。焼却は止むを得ないとして、減量について、鎌倉市としては何ができるかということになる。最近では食品ロスが話題になっており、レストラン等から出るごみをどう減らしていくかという研究もされている。減量の努力は引き続きしていただきたい。出来ることはたくさんあると思う。国の施策としては、排出抑制とリユースの2Rを進めて、リサイクルは減らしていきたいというところもある。それも含めて勉強していただき、あくまでも減量が第一目標であるという考え方で進めていただければと思う。

## 石井部長

ありがとうございます。現在、減量審で審議しているごみ処理基本計画において、これらのことが検討がされており、2Rを中心とした3Rに基本方針を変えていく考えである。また、今、

話があったように、事業系ごみを含めた食品ロスの発生抑制のためにはどうしたら良いのかを考えていくことが大きな課題であるとしてある。良い考えがあればご教示願いたい。

### **安田委員**

神戸の学会でもかなり食品ロスの話が出ていた。レジュメしかないが、必要であれば提供する。

### **荒井副会長**

リサイクル率について、国では平成 29 年度に 26%のリサイクル率を達成させるということをしている。資料から見ると鎌倉市の目標も国の目標と同程度であり、適当な値であると考えられるが、相当努力しないとこの目標は達成できない。先ほども処分場の不足の話があったが、国は循環利用を推進して国土が狭いという日本の特徴をなんとか凌ごうとしている。それでも出てくるごみについては焼却してエネルギーを回収するという鎌倉市の考え方は、国全体から見てもぶれていないと思う。

### **坂本委員**

私も市民として一生懸命リサイクルしているが、実際にはリサイクルにも多くのエネルギーが必要であることを知っているため、悩むこともある。ごみの問題は本当に難しく、こうすれば良いということが出てこない。ただ、現状ではどうしてもゼロにはならないので、その部分については焼却するしかないと思う。確かに鎌倉市は大きく方向転換したとを感じる部分もあったが、実際に基本計画の中身を見てみると、大きな焼却炉を造ってなんでも燃やしてしまおうとしているわけではなく、エネルギーを回収できる施設を造ろうという考え方になっている。印象と中身が違うので、丁寧に説明するしかないと思う。

### **村田委員**

事業系廃棄物、観光ごみについて、大きな変化は見られたのか。

### **石井部長**

事業系ごみについて、平成 22 年度は年間 13,000 t であったが、現在は 11,000t となっている。他市でも実施しているように、ピット前での検査によって分別の徹底を図ったことにより減量が進んだ。平成 25 年 1 月からスタートしたが、効果があったと言える。観光ごみについては、食品ロスの部分が大きいのと思われ、第 3 次ごみ処理基本計画の中の大きな課題になると思っている。事業系ごみの中に含まれている資源の有効活用も大きな課題と考えており、今後どういう対応をしていくのか考えていく必要がある。

### **村田委員**

観光ごみは市民の税金で処理していることになる。排出者負担の原則から言うと、観光客からお金を取るという議論もあって良い。市民の負担についても考えていかなければならないのではないかな。

## 石井部長

非常に重要な話である。観光ごみについて、基本は持ち帰っていただくという考え方である。これまでは市内にたくさんあったごみ箱を7つの拠点回収に限定したことも効果があったと思われる。食べ物に起因する観光ごみはどうしても出てくるので、その対応を考えていく必要がある。

## 村田委員

P4に候補地が4つ記載されているが、結果的に、ある一定区域に特定されてしまった。事業系廃棄物について、その地域には大きなスーパーがいくつかあるので、モデル事業を立ち上げてスーパーと一緒に排出抑制に繋がる売り方の検討等を行ってはどうか。

## 石井部長

過剰包装などの問題も減量審で意見が出ていた。拡大生産者責任のことも踏まえて検討していく必要がある。

## 村田委員

スーパーの環境担当者との勉強会等、ひとつずつ取組みを行っていき、ひとつでも効果的な方法があるならばその取組みを続ける等の地域に対しての取組み方があるのではないか。

## 石井部長

多量排出事業者やスーパーにも、拡大生産者責任のことを含めてお願いをしている。引き続き進展させていく必要がある。

## 村田委員

食品系の企業で、事業系ごみを多く出している企業もある。

## 石井部長

リサイクルループがどんどん出来ていくことが必要であるが、なかなかすぐには出来ない。そういうことも念頭において対応していきたい。

## 横田会長

ごみは運搬にお金が掛かるため、人が集積する場所でまとめて排出してもらおうとコストの削減につながる。スーパーにも協力していただくのが良い。

他に意見はあるか。特にないようであれば、修正できるところは修正するようお願いしたい。

続いて答申の文案についてご意見をお願いしたい。特にないようであれば、会長である私から市長に答申を行いたいと考えている。委員の皆様は、1年間大変ご苦勞様でした。特に今回は用地の選定作業から始まり、通常の基本計画の策定よりも困難な点があった。委員の皆様をはじめ、市民の方々からも知恵を拝借しながら作業を進めていった。改めてお礼を申し上げたい。また、事務局も委員からの指摘に対しての資料作成、データの確認作業等、事務量が多かったと思われるので苦勞であったが、市は今後、建設候補地を1つに絞る作業や、本計画を行政計画として位

置くためのパブリックコメント等を行っていく必要がある。まだまだたくさん作業があると思うが、今後の日程等が決まれば委員にも連絡をお願いしたい。本審議会はこれらの状況を見極めながら、引き続き施設のあり方について審議していく必要がある。委員の皆様には引き続きよろしくお願いしたい。私からは以上であるが、事務局から何かあるか。

### **遠藤課長**

委員の皆様方、これまで審議をありがとうございました。本日、鎌倉市ごみ焼却施設基本計画がまとまりましたので、修正した後、本日の午後に会長から市長に答申をお願いしたい。今後は候補地を1箇所絞り込み、市の基本計画案としてパブリックコメントを実施後、市の行政計画へと位置づけていきたいと考えている。また、新ごみ焼却施設の建設については、建設候補地を決定後、地元住民のご理解を得ながら協議を進め、合意形成に尽力していきたいと考えている。今後も施設整備について委員の皆様にご助言をいただくこともあると思われるので、その際にはよろしくお願いしたい。

今後の審議会の日程については調整して改めてご連絡させていただく。

### **石井部長**

長期間にわたって審議をしていただき、誠にありがとうございます。鎌倉市に焼却施設は必要不可欠であるが、周辺住民には負荷をかけることにもなるので、施設を造るにあたっては環境面、安全・安心面に十分注意して対応していく必要があると考えている。今回様々な項目毎に専門性の高い知識、経験を踏まえてご議論いただいたと考えている。改めてお礼を申し上げたい。今後は用地の選定、地元住民の方との協議という過程を踏まえたなかで、平成37年の稼働を目指していきたい。造ってよかったと言ってもらえる施設造りを行っていきたいと考えているので、今後ともよろしくお願いしたい。

### **横田会長**

今後の審議会の日程については、事務局で調整、準備をお願いしたい。

これで本日子定されていた議事はこれですべて終了した。これで第15回鎌倉市生活環境整備審議会を終了する。ありがとうございました。